



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	小泉武栄先生のご退職に向けて（小泉武栄先生を送る）(fulltext)
Author(s)	加賀美,雅弘
Citation	学芸地理(67): 21-21
Issue Date	2013-03-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2309/134152">http://hdl.handle.net/2309/134152</a>
Publisher	東京学芸大学地理学会
Rights	

## 小泉武栄先生のご退職に向けて

加賀美雅弘\*

小泉武栄先生は、2013年3月31日をもって東京学芸大学を退職されることになりました。1978年のご着任以来、30年以上にわたって地理学教室を盛り立ててくださったことに、あらためてお礼を申し上げます。

小泉先生が、ご研究においても、またパーソナリティにおいても、いかにユニークであり、そしてどれだけの業績をものされたかはすでに周知のことですので、ここでは個人的に感銘を受けた著作をもとに書かせていただきます。

膨大な業績のなかで、専門のご研究ではないのですが、人文地理の研究者に向けて痛烈な批判の矢を放った「自然地理学者から人文地理学者へ」（東京学芸大学紀要、1992）の論考は、たいへん印象深いものでした。これは当時、広く反響を呼び、人文地理サイドにとってセンセーショナルな文章だったことから、こんなものを読むな、という声まであがったほどでした。もちろん、おおかた好意的な反響があり、これをもとに地理学のあり方について新たな議論も起こりました。パターン化した思考回路による人文地理の研究に対する危機感から、たまりかねて書いたという当時のご当人の弁が思い出されます。近くにこのような発言をする先生がおられることをとても頼もしく感じたものです。

地理に興味をもつ人が世間にはたくさんいるのに、人文地理の研究にはおもしろいものが少ない。以来、小泉先生はこの問題に自ら取り組

んでこられたように思われます。特に中公新書の『登山の誕生』（2001）は、博覧強記ぶりがいかに発揮されたもので、幅広い層に読まれる優れた啓蒙書として高く評価されています。山の自然への関心から登山という人間の行為にまで視野を広めたこの本は、自然と人間とのかかわりを見事に描き出しており、登山という文化を考察している点で、本来ならば人文地理の人間がやるべきテーマといえるでしょう。正直なところ「やられた！」との思いでしたが、あきらかにそれは人文地理学者への挑戦だったように思います。

先生のこうした地理学への熱いまなざしは、当然のことながら学生指導にも向けられました。小泉先生の指導を受けた学生のなかから数多くの博士号取得者が育ち、全国各地の大学の教員になっているのは、先生の地理学への情熱がいかに魅力的であるかをよく示していますし、その情熱は着実に次の世代へと受け継がれているものと拝察しております。

小泉先生は、研究の面においても教育の面においても、東京学芸大学に大きな足跡を残されました。今後もひきつづきご指導を頂戴できればと思いますし、東京学芸大学地理学会において地理のおもしろさを発信してくださることを切に願っております。

ますますのご健勝とご活躍をお祈りしつつ、送別のことばとさせていただきます。

\* 東京学芸大学地理学分野（主任）